# P5　富山市北代遺跡（縄文時代中期）掘立柱建物の柱穴から出土した鯨椎骨

古川知明(富山市教育委員会)・○平口哲夫(金沢医大・人文)

**A whale vertebra excavated from a pillar-hole of a building with pillars embedded directly in the ground at the Kitadai site of the Middle Jomon-period in Toyama.**

Tomoaki Furukawa (The Toyama-shi Board of Education), Tetsuo Hiraguchi (Kanazawa Medical University)

1996 年 7 月富山市北代遺跡の史跡整備に伴う発掘調査において，縄文時代中期後葉の掘立柱建物の柱穴(SB01-P1) から出土した鯨骨椎体片 1 点について報告する。当資料は，ナガスクジラ（*Balaenoptera physalus*）尾椎の左椎頭・背面部に相当する可能性が高く，その特異な出土状況から地鎮祭のような祭祀的性格をもつことが指摘されている（富山市教委，1997・1998)。

**掘立柱建物と鯨骨出土状況**　鯨骨が出土したのは 1996 年検出の第 1 号建物跡からであるが，翌年の調査においても，これと同一の棟方向でかつこれに近接して，２棟の掘立建物跡(第２号・第３号建物)が重複して検出された。周辺には柱穴と考えられる小ピットが数多く存在することから，さらに多くの掘立柱建物があった可能性が考えられる。同一箇所ないし近接した位置で建て直されていることについては，日常性と祭祀性との両面から検討する必要がある。

第 1 号は，南北に長い長方形をした 6 本柱建物跡で，第２・３号よりも大きく長辺 3.6 m，短辺 3.4m(外形)を測る。柱間の距離は長辺で 1.6～2.0m である。東側柱列の 3 本は，径 60～70cm の掘り方をもち，径 20～25cm の柱を埋めたとみられる。掘り方は深さ 35～40cm，黄色土と黒色土を交互に埋めた部分もみられる。柱穴内からは縄文中期後葉(約 4000B.P.)の土器が出土しており，この建物の所属時期を示していると考えられる。

問題の鯨骨は，第 1 号建物跡の北東隅に位置する柱穴 P1 の掘り方上部から磨製石斧といっしょに出土した。

**鯨骨の概要と同定**　椎体破片の現状における大きさは，椎端面の最大長 9.3cm，最大幅 5.4cm，頭尾方向の最大長(椎体長)5.8cm，質量 85g を計る。全体に白っぽく変色しているが，破損面はやや灰褐色をおびている。椎端板は椎体本体に完全に融合している。

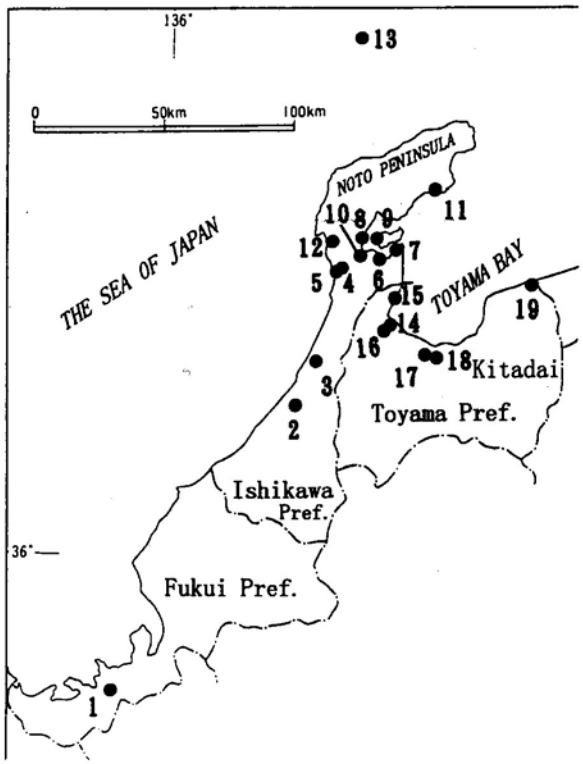
多孔質でかなり大きな椎体の破片であることから，ナガスクジラ級の大きさの鯨類のものであろうとの見通しをえた。さらに，門前ナガス保存会（セト研のサブグループ）が収集したナガスクジラ骨（1996.12.21.石川県門前町黒島に漂着）のうち，本資料に近い部位と思われる尾椎骨 1 点と比較した。

尾椎は背面に棘突起のついた前半グループと棘突起のつかない後半グループとに二分することができる。比較に用いた現生標本は，前半グループの中ほどの部位に相当するものと思われる。椎端板は遊離，欠如している。この状態で，椎体長 20cm，椎頭（椎体前端）面幅 30.5cm，椎頭面高 28.5cm？，棘突起・腹面間距離 44.6cm，左右横突起間距離 50.5cm を計る。

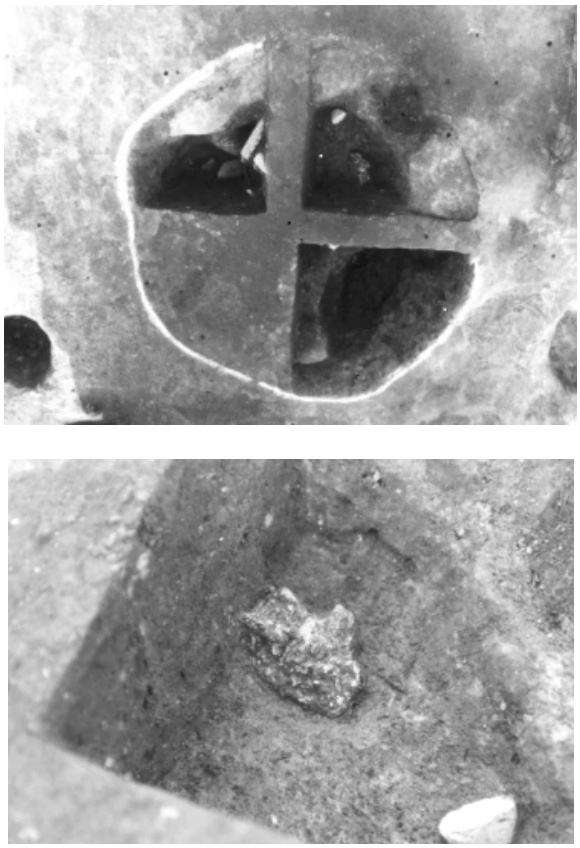
これと比較したところ，当資料はナガスクジラ尾椎の左椎頭・背面部に相当する可能性が高いという判定結果をえた。現生標本は，体長 15m のナガスクジラであり，椎端板が遊離していることからも分かるように比較的若い個体である。一方，当資料も椎端板が遊離しているが，成熟に達する 10 歳前後の平均体長約 18m に近い可能性もある。(註)

註：元の発表要旨では当資料の椎端板が椎体に完全融合していると述べたが、遊離していたとみなしたほうがよいので、要旨集の改訂版に当って関連記述を修正しておく。

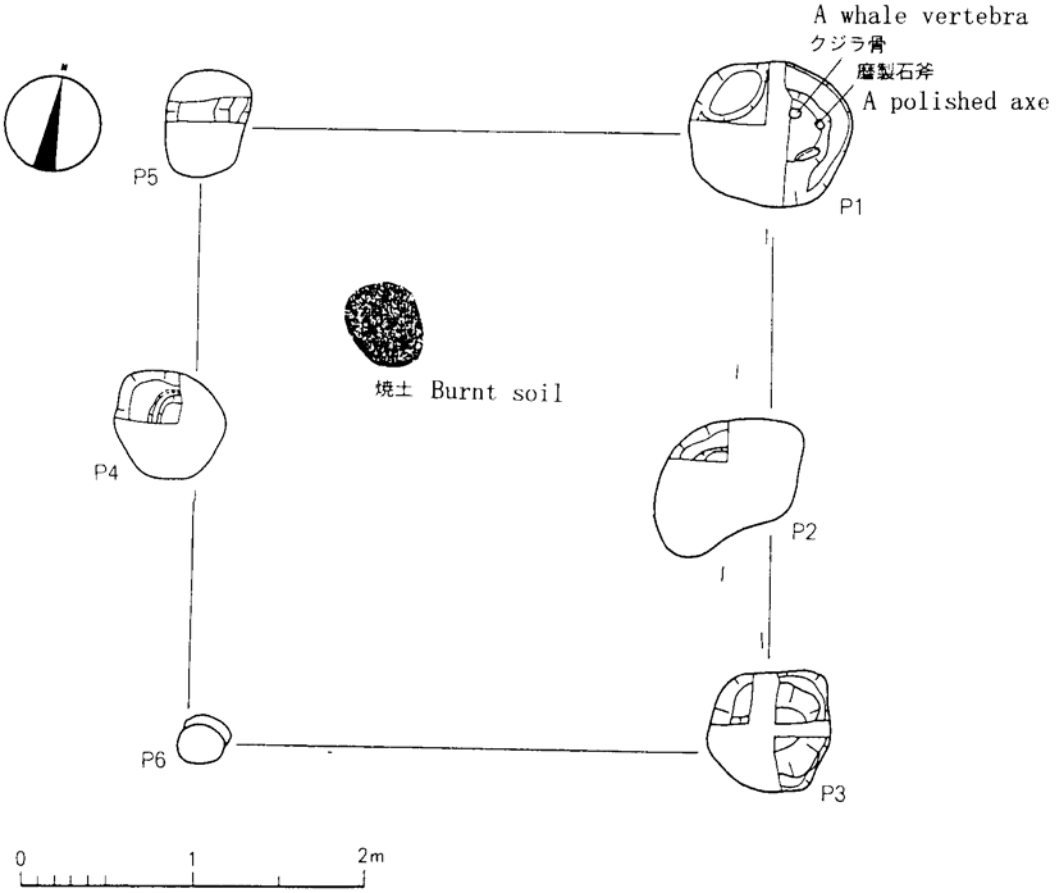
日本海セトロジ―研究グループ第 9 回研究会発表要旨集(1998)から転載、改訂



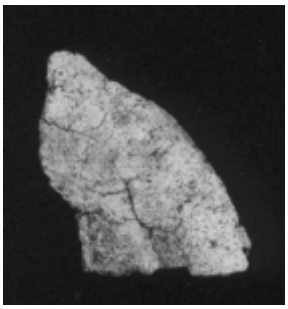

北陸における縄文～平安時代の鯨類骨出土遺跡の分布



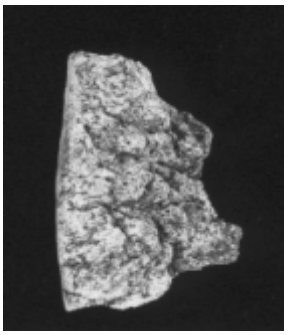
掘立柱建物 SB01 北東隅穴 P1 内で発見された鯨椎骨と磨製石斧の出土状況



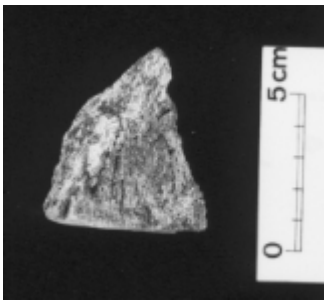

北代遺跡掘立柱建物 SB01 の平面図と磨製石斧を伴なって発見された鯨椎骨の出土位置(古川, 1997)



椎頭面観

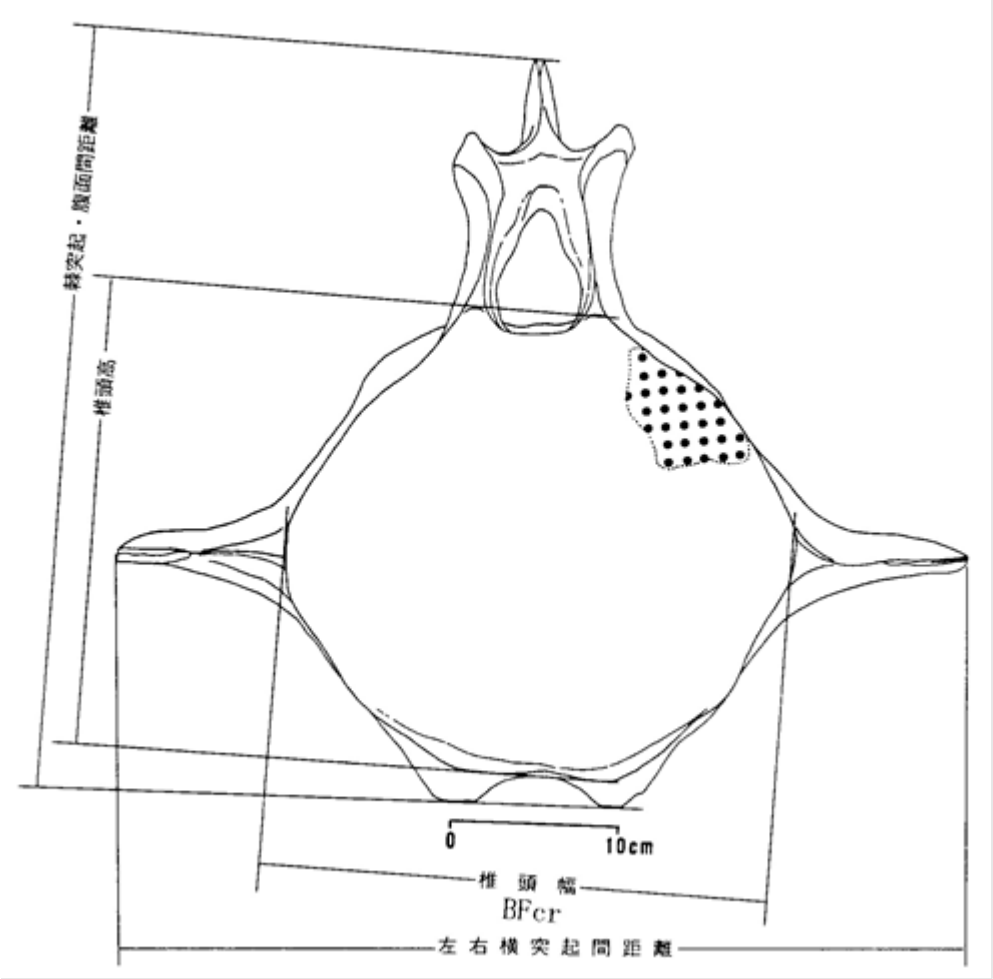


左側面観




背面観

北代遺跡から出土した鯨椎骨破片




鯨椎骨破片は、ナガスクジラ尾椎の左椎頭・背面部（ドット部）に相当すると推定された。復元図は、1996 年 12 月に石川県門前町に漂着したナガスクジラの骨格標本による。

門前町漂着ナガスクジラの椎骨を実測中の平口

日本海セトロジ―研究グループ第 9 回研究会発表要旨集(1998)から転載、改訂